

立場を越えた、あるべき姿勢を教えられた

先程、当HP（辞職挨拶）で触れさせていただいた近藤先生（平成10年3月にご逝去）の奥様から、辞職の挨拶状に「先生のご指導のお陰で、35年間を悔いなく過ごせました。」と添え書きしただけですのに、遠く徳島からお電話をいただいた。

私としては、湊先生といい、近藤先生の奥様といい、私の単なる辞職挨拶状にも拘わらず、目にして直ぐにお言葉を返していただくことは、感激、感動ものです。

元院長という立場からも私の比でないご交際の多さに拘わらず、また、形式的な挨拶状と処理されても致し方ない状況であるにも拘わらず、こうした素早い行動（反応）は、どれだけ私を支え、勇気づけてくれることか。

こうした方々の素早い反応に接するにつけ、我々は人同士のコミュニケーションの重要性を日頃口にしながら、実際にこうした方々のようにコミュニケーションを豊かにする努力をしているであろうか、また、人を励ます営みをしているだろうか。（もちろん、湊先生、奥様共、意識して行っていることでないだろう。だから、なおのこと凄い！）

私自身も最近、よく「やりとり」の重要性を口にしているが、それが日常のあらゆる場面、あらゆる機会で行うことの大切さをつくづく教えられた昨日、今日であった。また、人に慕われ、人に感銘を与え、人に敬服される人の行動とは、立場を越え、日常的にどういうことかも改めて教えられた日々であった。

（2002年04月25日記）